

5. 4 国立情報学研究所のメタデータ・データベース（仮称）について

国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長

大場 高志

1. はじめに

- 文部省学術審議会
「大学図書館における電子図書館機能充実・強化について」（建議）（平成8年7月）
- 国立大学図書館協議会図書館電子化システム特別委員会
第3年次報告（平成13年6月）
…メタデータ¹の標準化，図書館間での相互連携，記述規則の集約
（→図書館高度情報化特別委員会（後継委員会）がひきつづき検討中。）
- 国立大学図書館協議会情報資源共用・保存特別委員会
「学術情報資源への安定した共同アクセスを実現するために」（平成13年6月）
…ネットワーク上の資源への円滑なアクセスの確保，国際的な共同利用（学術
研究の国際性，国際協力に基づく編成と維持）
- 科学技術・学術審議会、研究計画・評価分科会、情報科学技術委員会、デジタル研究情報基
盤ワーキング・グループ
「学術情報の流通基盤の充実について」（審議のまとめ）（平成14年3月12日）
（2）大学等からの学術情報発信機能の整備

以上のような動きを背景として、インターネット上の各種情報資源の収集・組織化が図書館における主要な任務として期待されている。また教育研究情報を学内外へ効果的に発信していくことも大学等機関にとっての大きな課題のひとつとなっている。一方では、情報資源の組織化のためには「メタデータ」の規格が整備されつつあるところであり、昨年本研究所でも主要なメタデータ規格のひとつである Dublin Core²の会議³が開催された。

2. 国立情報学研究所のメタデータ・データベース

¹ データに関する構造化されたデータのこと。例えばネットワーク上の情報資源としてのホームページであれば、ホームページのタイトル、作者、内容（主題情報）、言語及び URL などがメタデータである。図書館で作成される目録情報も、メタデータの一つである。

² DublinCore Metadata Element Set。情報資源記述の標準化を目指して開発された規格のひとつ。Title、Creatorをはじめとする基本的（Core）な15の項目からなる。一次資源（図書等）からネットワーク上のコンテンツまで、多種多様な情報資源を記述対象として想定している。これに関するワークショップの第1回がDublinで開催されたことからこの名前と呼ばれる。

³ International Conference on Dublin Core and Metadata Applications 2001

平成13年10月22～26日（国立情報学研究所）

<http://www.nii.ac.jp/dc2001/>

国立情報学研究所では、平成10年度から平成12年度まで、総合目録委員会において「ネットワーク上の情報資源の取扱い」について審議し、電子ジャーナルの総合目録データベースへの反映の仕方、つづいて、メタデータの反映の仕方を議論してきた。

平成13年度には、メタデータ・データベースの共同構築方式を採用することを決定した。その間の経過は、以下の通りである。

(1) 「ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議」(平成13年7月～11月)

・ 共同作成すべきメタデータデータベースに関する

(1) 対象範囲・作成単位

(2) 作成・提供方法

(3) データ内容

等の在り方についての基本方針を策定した。(「ネットワーク上の情報資源の取扱い(案)」(別紙))

(2) 「メタデータデータベース検討会議」(平成13年12月～)

・ システム設計、運用方法、データ要素・内容等についての検討し、メタデータ・データベース共同構築システムプロトタイプを作成し、平成14年6月より数館の協力を得てメタデータ入力の試行運用中である。(デモンストレーション)

4. 今後の予定

9月に、全国説明会を行ったうえで、10月からメタデータ共同構築事業をスタートさせる予定である。

エンドユーザ向けのサービスは、ポータルサイト事業化プロジェクトによるGeNii内にて行い、来年1月から一般に公開する予定である。

なお、データ交換などによる、参加大学側のポータル機能との連携の可能性についても検討中である。

ネットワーク上の情報資源の取扱い（案）

1. 趣旨

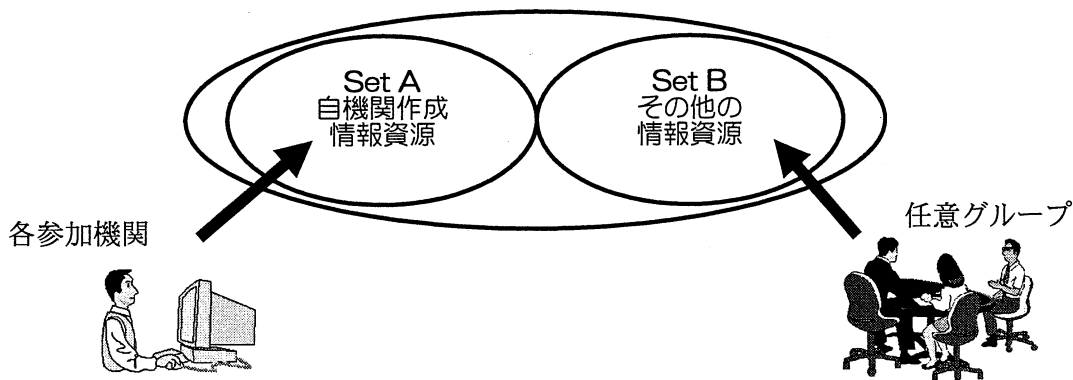
- (1) 個々の機関での収集・整備には限度がある，ネットワーク上の情報資源に関するメタデータデータベースの構築を，相互補完的・効率的に行うことを目的とする。
- (2) サーチエンジンで検索される雑多な情報資源とは異なり，一定の評価基準を満たす，学術研究及び教育上，有用な情報資源への効果的かつ確実なアクセスを保証する。
- (3) サーチエンジン等で自動収集されない情報資源も含めて網羅的に収集し，各機関の情報発信を支援する。
- (4) 情報資源に関するメタデータデータベースを，継続的に構築することを可能とする。
- (5) 作成したメタデータについては，各参加機関の図書館システム及びホームページ等での再利用を可能とする。

2. 作成方式

- (1) 共同分担作成方式をとる。
- (2) 共同分担作成への参加は任意であり，大学等の高等教育機関，研究機関，博物館・美術館，行政機関，学協会等の機関が参加できる。
- (3) 各機関内のメタデータの作成者としては，主に図書館及び情報センター等の組織を想定する。
- (4) 作成したメタデータの内容変更のチェックは，自動検索ロボット等の機械的な手法を活用して効率的に行う。最終的な確認とデータ修正は，メタデータ作成元が責任をもって行う。
- (5) 将来的には，情報資源の作成者によるページソースへのメタデータ付与を視野に入れる。

3. 対象とする情報資源

- (1) 各機関内で発信する情報資源に関するメタデータは，各機関が作成する（下図 Set A）。
- (2) 学術研究及び教育に有用な情報資源を対象とする。
- (3) 情報内容の信頼性，安定性，継続性等の評価基準に基づき，選択する。
- (4) 情報資源で使用する主題，言語は問わない。
- (5) Web ブラウザでフリーアクセス可能な，例えば次のような種類の情報資源を取扱う。
 - ・電子ジャーナル，論文，プレプリント，解説書，用語解説，シラバス，貴重書データ（画像，テキスト），統計，音楽資料，音声データ，データ集，データベース，OPAC，目録
- (6) 機関外の情報資源についても，任意のグループで共同分担し，分野毎のメタデータ作成等を行うことも可能とする（下図 Set B）。

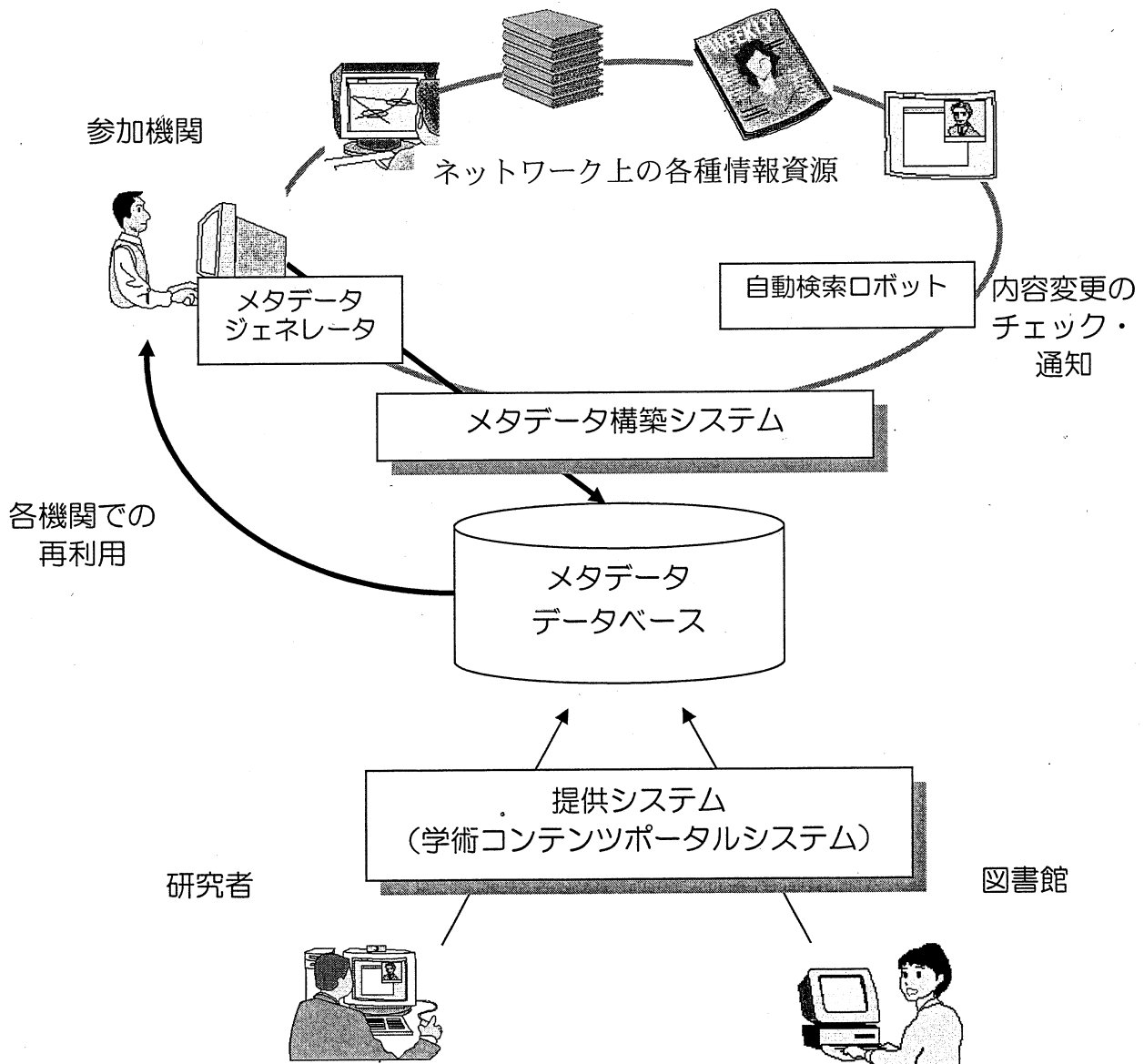


4. データ内容

- (1) 共同作成するメタデータについて、ダブリンコアに準拠した、標準的なデータ内容・形式を
取り決める。
- (2) 作者については、NACSIS-CATの著者名典拠ファイルを典拠として利用する。
- (3) 件名、分類、キーワード等の付加情報を加え、主題検索に対応する。
- (4) 電子ジャーナルと論文といった、構造化された異なる単位（レベル）のメタデータの取扱い
を可能とする。

5. メタデータデータベース構築システム

- (1) NACSIS-CATとは別の作成システムを、NIIで開発・運用する。
- (2) 総合目録データベースとは別のデータベースに収録する。
- (3) NACSIS-CATの書誌レコード、著者名典拠レコードの流用を可能とする。
- (4) Webブラウザ等から簡単に利用できるものとする。
- (5) メタデータジェネレータ、自動検索ロボット等の要素技術を活用する。



試行運用におけるメタデータの記述要素

1. Title

Name	Title
Label	Title
Definition	情報資源に与えられた名前
Level	必須
Qualifier	— Alternative(1) Transcription(2)
Scheme	—
Note	(1)Titleとして記述しなかった, その他のタイトル。選択, 繰返し可。 (2)カナヨミの分かち書きを記述する。

2. Creator

Name	Creator
Label	Creator
Definition	作成者。情報資源の内容・知的内容に主として責任を持つ個人または団体
Level	必須 繰返し可
Qualifier	— Transcription(1)
Scheme	— (2) NC (2)(3) RES(4)
Note	(1)カナヨミ分かち書き (2)各 Qualifier と各 Scheme の組み合わせがある。この場合, 4 通りの組み合わせが定義される必要がある。 (3)NACSIS-CAT 著者名典拠ファイルの形 (4)NACSIS-IR 研究者ディレクトリの形

3. Subject

Name	Subject
Label	Subject
Definition	主題
Level	必須(システム的には選択) 繰返し可
Qualifier	—
Scheme	— LCSH NDC NDLC BSH
Note	

4. Description

Name	Description
Label	Description
Definition	内容記述
Level	選択 繰返し可
Qualifier	—
Scheme	—
Note	

5. Publisher

Name	Publisher
Label	Publisher
Definition	公開者(出版者)
Level	選択 繰返し可
Qualifier	— Transcription
Scheme	— NC
Note	

6. Contributor

Name	Contributor
Label	Contributor
Definition	寄与者(内容に関与していながら, Creator に記述しない者)
Level	選択 繰返し可
Qualifier	— Transcription
Scheme	— NC
Note	

7. Date

Name	Date
Label	Date
Definition	日付
Level	選択 繰返し可
Qualifier	Created Modified
Scheme	ISO8601(W3C-DTF)

Note	
------	--

8. Type

Name	Type
Label	Type
Definition	資源タイプ
Level	選択
Qualifier	—
Scheme	DCMI NII(1)
Note	(1)NII独自の資源タイプ(今後検討予定)を記録する。

9. Format

Name	Format
Label	Format
Definition	フォーマット
Level	当面使用しない。
Qualifier	—
Scheme	IMT(1)
Note	(1)メタタグから自動付与する。

10. Identifier

Name	Identifier
Label	Identifier
Definition	資源識別子
Level	
Qualifier	—
Scheme	URI(1) ISSN ISBN
Note	(1)自動付与する。

11. Source

Name	Source
Label	Source
Definition	情報源
Level	当面は使用しない
Qualifier	—
Scheme	—
Note	

12. Language

Name	Language
Label	Language
Definition	言語
Level	繰返し可

Qualifier	—
Scheme	ISO639-2
Note	

13. Relation

Name	Relation
Label	Relation
Definition	関係
Level	選択 繰返し可
Qualifier	—(1)
Scheme	—
Note	(1)検討中

14. Coverage

Name	Coverage
Label	Coverage
Definition	範囲
Level	・当面は使用しない
Qualifier	—
Scheme	—
Note	

15. Rights

Name	Rights
Label	Rights
Definition	権利関係
Level	当面は使用せず。
Qualifier	—
Scheme	—
Note	